

2023年10月31日
株式会社三菱UFJ銀行

カシオ計算機株式会社と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち}半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、カシオ計算機株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。カシオ計算機株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

《本件の概要》

【カシオ計算機株式会社の ESG への取り組み】

カシオ計算機株式会社は、経営理念として「創造 貢献」を掲げており、それまでにない斬新な働きを持った製品を提供することで、社会貢献を実現するという創業者の想いが込められております。この理念を実践し続けることが、長期的な企業と社会の持続的成長に繋がると考えています。

これらの理念及び行動規範を土台に、数々の発明品を社会に提供してきたモノづくり企業として、果たすべき社会的責任の中で、特に社会的なインパクトが大きいと考えているものを重要取組事項として「マテリアリティ（CSR の重点課題）」に定めています。

加えて、経営戦略の一貫として「サステナビリティ中期重点戦略」を策定し、「中期経営計画」ともリンクさせた取り組みを推進しております。これらの計画・戦略を各事業で、全社で具体的な目標に落とし込み、実践していくことにより、企業と社会の持続的成長を目指しています。

サステナビリティ目標達成に対しインパクトを与える活動として、カシオ計算機株式会社の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容とインパクトの状況
<p><社会> 教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育事業を通じた教育レベルの向上 └世界 100 ヶ国の教育現場に関数電卓を提供し、30 年以上にわたって関数電卓を通じ先生や生徒を積極的にサポートする「GAKUHAN」活動を展開 └オンライン辞書などの学習コンテンツとデジタルノートを統合した総合学習プラットフォーム「ClassPad.net (クラスパッドドットネット)」を提供し、ベータ版は 2021 年度に 600 校以上に採用
<p><社会> 雇用 <経済> 包摂的で 健全な経済</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人材の雇用拡大・活躍推進 └女性マネージャー比率：6.7% (2022 年度、単体) └女性社員比率：22% (2022 年度、国内カシオグループ) └新卒女性採用比率：31% (2023 年 4 月入社、単体) └女性育児休業取得率：94.4% (2022 年度、単体) └男性育児休業取得率：52.1%(2022 年度、単体) └障がい者雇用率：2.46% (2023 年 4 月、国内カシオグループ)
<p><社会> 教育 雇用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材マネジメントの推進 └男性年間平均研修時間：7.6 時間 (2022 年度、単体) └女性年間平均研修時間：6.9 時間 (2022 年度、単体) └業績とキャリア開発についての定期的評価を受けている社員の比率：9% (2022 年度、単体)
<p><社会> 文化・伝統</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽事業による文化的生活の提供 └サウンド (楽器) 事業売上高：264 億円 (2023 年 3 月期、連結) └Privia Upper Grade 販売台数：8 千台 (2023 年 3 月期、連結)

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクト領域	インパクトの状況と、緩和・管理の状況
<p><環境> 気候</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <p>自社における GHG 排出の発生</p> <ul style="list-style-type: none"> └Scope1 排出量：3,384.6t-CO₂ (2022 年度) └Scope2 排出量：16,628.1t-CO₂ (2022 年度) └Scope3 排出量：456,678.7t-CO₂ (2022 年度) <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カシオグループ環境基本方針において、脱炭素社会の実現を重要な課題として位置付け、温室効果ガスの削減目標を定め、SBTi の認証を取得
<p><環境> 廃棄物</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <p>自社拠点における廃棄物の発生</p> <ul style="list-style-type: none"> └廃棄物 (有価物含) 発生量合計：2,465.3t (2022 年度) └再資源化率：93.9% (2022 年度) <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カシオグループ環境基本方針において、資源循環型社会の実現を重要な課題として位置付け、事業所廃棄物の最小化、新たな採掘資源私用の最小化、使用済み製品・包装材の回収の最大化に取り組んでいる
<p><環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <p>製品ライフサイクル全体における環境負荷の発生</p> <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の環境影響を評価し一定基準を満たした「カシオグリーン製品」、より高い評価基準に基づく「カシオグリーンスター製品」、さらに高い評価基準に基づく「カシオスーパーグリーンスター製品」を認定する取り組みにより、製品ライフサイクル全体における環境負荷の低減を図っている

<p><環境> 水（質） 大気 土壌</p>	<p>【インパクトの状況】 自社拠点における有害排出物の発生 〓 VOC 投入量/排出量、PRTR はカシオグループでの年間の合計値が 1 トン以上の場合に、個別データを開示することとされており、2021 年度は開示実績なし</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・自社拠点について ISO14001 による環境マネジメントシステムを構築・運用し、国や県・市が定める規制基準および自主基準に基づき、排出ガス濃度（ばいじん・SOx・NOx）や排水水質（有害物質を含む水）の測定による状態管理や改善活動を定常的に実施</p>
<p><環境> 生物多様性と生態系サービス</p>	<p>【インパクトの状況】 操業を通じた生物多様性への影響 〓 最終製品の組み立てが製造工程の主体であり直接影響リスクは限定的</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・「生物多様性ガイドライン」に基本方針や事業活動、影響評価における具体的な取り組みを定め、サプライチェーンを通じたアンケート調査実施も定めている ・「自然との共生（生物多様性保全）」を管掌する「M3 委員会」において、国内向け製品カタログの森林認証紙化や国内の主要な事業拠点の生物多様性調査を進めている</p>
<p><社会> 保健・衛生</p>	<p>【インパクトの状況】 従業員の健康問題の発生 〓 定期健診受診率：99.6%（2022 年度、単体） 〓 定期健康診断の再検査受診率 78.6%（2022 年度、単体） 〓 メンタル不全率（2022 年度、連結） 〓 不全率 0.8% 〓 休業率 0.4% 〓 ストレスチェック受診率：96.7%（単体） 〓 適正体重維持者率 69.7%（2022 年度、単体） 〓 喫煙率 13.3%（2022 年度、単体）</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・健康づくりに関する「CASIO 健康基本方針」を定め、CHRO を中心とした健康経営体制、また施策推進強化の為に健康経営推進チームを発足し横断的な活動を展開</p>
<p><社会> 人格と人の安全保障</p>	<p>【インパクトの状況】 コンプライアンス違反・ハラスメントの発生 〓 公益通報ホットライン：11 件（うち、ハラスメント 5 件、その他 6 件）（2022 年度、連結）</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・「カシオビジネスコンダクトガイドライン」の中で、セクシャルハラスメントおよびパワーハラスメントおよびマタニティハラスメントなど人格を無視するような行為を行わないことを明記し、「ハラスメントの防止に関する指針」を制定するとともに相談窓口を設置して対応</p>
<p><社会> 雇用 保健・衛生</p>	<p>【インパクトの状況】 労働災害の発生 〓 労働災害度数率：0（2022 年度、単体） 〓 労働災害強度率：0（2022 年度、単体） 〓 死亡者数：0（2022 年度、単体）</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・「労働災害ゼロ」の実現に向けて、各職場で無事故・無災害を目指した安全活動を展開 〓 普通救命講習の受講</p>

	<ul style="list-style-type: none"> └ 震災対策（震災対策ハンドブック、サバイバルカード）、防災備蓄品の準備 └ 救急対応手順、AED 操作手順 └ 緊急連絡/安否確認システム
<p><社会> 人格と人の 安全保障</p>	<p>【インパクトの状況】 直接操業/サプライチェーンにおける人権侵害の発生</p> <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カシオグループ人権尊重に関する基本方針」において、国際人権章典、国際労働機関（ILO）「労働の基本原則および権利に関する宣言」等の人権に関する国際行動規範の支持・尊重、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく人権尊重の取り組み推進、人権デューディリジェンスの仕組み構築・継続的な実施を定めている ・ESG・総務部（サステナビリティ推進室）、人事部、資材部が中心となって人権尊重に関する取り組みを推進しており、グループ会社を対象とした人権課題チェックによる人権課題への取り組み状況の確認の実施、すべてのお取引先に、“人権の尊重・差別の禁止”を明記した「お取引先さまへのお願い」を提示・遵守をお願いするとともに、アンケート調査等を通じて遂行管理を徹底
<p><社会> 人格と人の 安全保障</p>	<p>【インパクトの状況】 サプライチェーンにおける CSR リスク</p> <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公正で公平な取引のもと、法令・社会規範の遵守、人権・労働・安全・健康への配慮、生物多様性の保全や化学物質のリスク管理などによる環境保全への配慮等の社会的責任について、サプライチェーンを通じて遂行する為に、「資材調達方針」を制定の上、サプライチェーンにおける ESG 実態の可視化のため CSR アンケートを実施している ・執行役員 生産本部長が責任者となり、CSR 調達推進の担当組織を設置 ・世界 405 社のお取引先に CSR アンケートを実施し、405 社中 404 社より回収（2022 年度）

2023 年に ICT 教育アプリ「ClassPad.net（クラスパッド ネット）」のシステムへの不正アクセスにより、個人情報漏洩した事案が発生しています。事案発生の原因としては、所管部門におけるシステムの誤操作等により、第三者が不正アクセスできる状況となったものと現時点では推定されており、再発防止策として、ネットワーク経路及びデータベースに対しセキュリティ強化施策を行うなど技術的な安全管理を強化すること、運用管理面において、セキュリティ運用ルールの見直し、およびセキュリティ対策に関する教育を継続して行うなど徹底的な安全管理の対策をすることを策定されております。

当行はこれら再発防止策の進捗状況について、モニタリングを実施いたします。

本契約の締結にあたり、特定されたポジティブ・インパクトの創出・維持及び、ネガティブ・インパクトを緩和・管理する為に、カシオ計算機株式会社による今後の取組内容・目標、当行がモニタリングする項目は下記の通りです。

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI 等）
・ASEAN 諸国に注力した「GAKUHAN」活動の推進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「GAKUHAN」活動及び 関数電卓の開発・販売を推進

<p>・「ClassPad.net」を用いた ICT 活用実践／ICT 活用実践を踏まえた効果検証により学校現場との共創を強化し、様々な学習支援を推進</p>	<p>・総合学習プラットフォーム「ClassPad.net」を主とするハード・ソフト両面における、教育の ICT 化を推進</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <p>・「GAKUHAN」活動の取組み状況</p> <p>-ASEAN 諸国をはじめとする新興国での活動エリア拡大等</p> <p>・ハード・ソフト両面における、教育の ICT 化対応への取組み状況</p> <p>-中学校や高校とのデジタル学習支援に関する協定や、各種 ICT 活用の実践等</p>
<p>多様な人材の雇用拡大・活躍推進</p> <p>└「カシオビジネスコンダクトガイドライン」にて「従業員の多様性を尊重し、働きやすい職場環境を構築します」とする方針を定め、従業員の多様性を尊重し、働きやすい職場環境を構築</p> <p>└全員で常に新しい顧客価値を生み出す革新的で活力のある職場づくり</p> <p>└創造・変革行動を喚起し、貢献度、成果に適正に報いる処遇・評価システム</p> <p>└社員の自律的な職務遂行とキャリア形成をサポートする人材開発システム</p>	<p>【目標】</p> <p>・女性マネージャー比率：10%(2030 年度、単体)</p> <p>・新卒女性採用比率：25%以上 (2030 年度、国内カシオグループ)</p> <p>・女性育児休業取得率：100% (2030 年度、単体)</p> <p>・男性育児休業取得率：100% (2030 年度、単体)</p> <p>・障がい者雇用率：2.7%以上 (2030 年度、国内カシオグループ)</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <p>・女性マネージャー比率 (単体)</p> <p>・新卒女性採用比率 (国内カシオグループ)</p> <p>・女性育児休業取得率 (単体)</p> <p>・男性育児休業取得率 (単体)</p> <p>・障がい者雇用率 (国内カシオグループ)</p>
<p>GHG 排出量削減</p>	<p>【目標】</p> <p>・Scope1+2：2018 年度比で、2030 年度までに 38%削減、2050 年度までに実質ゼロ</p> <p>・Scope3：2018 年度比で、カテゴリー1 とカテゴリー11 を 2030 年度までに 30%削減</p> <p>・再生可能エネルギー導入比率：2024 年度までに 40%以上、2027 年度までに 55%以上に引き上げ</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <p>・Scope1,2,3 排出量 (連結)</p> <p>・再生可能エネルギー導入比率 (連結)</p>
<p>廃棄物削減</p>	<p>【目標】</p> <p>・2030 年度までに事業拠点廃棄物のゼロエミッション化達成を目指す</p> <p>※ゼロエミッションの定義： 埋立廃棄率＝(最終埋立処分量÷廃棄物(有価物含む)発生量)×100 が 1%以下であること</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <p>・埋立廃棄率 (連結)</p>
<p>製品ライフサイクルの環境負荷の低減</p>	<p>【目標】</p> <p>・「カシオグリーンスター製品」及び「カシオスーパーグリーンスター製品」の売上比率を、2025 年度までに 90%以上に引き上げ</p> <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <p>・「カシオグリーンスター製品」及び「カシオスーパーグリーンスター製品」の売上比率 (連結)</p>

「持続可能な紙」の利用向上	【目標】 ・「持続可能な紙」の利用比率を 2030 年度までに 100% 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・「持続可能な紙」の利用比率（連結）
従業員の健康問題の発生抑制	【目標】 ・定期健康診断再検査受診率 100%（2030 年度） ・適正体重維持者率 70%（2030 年度） ・喫煙率 10%（2030 年度） 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・定期健康診断再検査受診率（単体） ・適正体重維持者率（単体） ・喫煙率（単体）
直接操業/サプライチェーンにおける人権侵害の発生低減	【目標】 ・毎年の人権課題チェックの実施率及びフィードバック実施率 100% 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・人権課題チェックの実施率及びフィードバック実施率（連結）
サプライチェーンにおける CSR リスク低減	【目標】 ・毎年の一次取引先における CSR アンケート実施率・回収率 100% 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・一次取引先における CSR アンケート実施率・回収率（連結）

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目（KPI 等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上